

日中対照言語学会会報 (No.66)

2024 年 5 月 22 日 (水) 発行 会報担当：彭飛 竹島毅 古賀悠太郎

目次

1. 2024 年度第 1 回拡大理事会議事録
 2. 会員総会報告
 3. 第 50 回全国大会 (2024 年度春季大会) 報告
 4. 学術研究会報告 (2024 年 1 月・2 月・4 月)
- ※ 事務局より

1. 2024 年度第 1 回拡大理事会議事録

日 時：2024 年 5 月 12 日 (日) 12:20～13:20

場 所：オンライン会議 (Zoom)

出席者：安藤好恵、于飛、王安、王学群、王其莉、王蕾、太田匡亮、岡原嗣春、岡本俊裕、勝川裕子、加藤晴子、北村よう、江涛、古賀悠太郎、小路口ゆみ、呉川、齋藤貴志、下地早智子、曹泰和、孫成志、竹島毅、建石始、玉岡賀津雄、趙海城、張婧禕、張黎、丁雷、豊嶋裕子、新田小雨子、畢文涛、苗苒、平山邦彦、福田翔、藤原優美、彭飛、丸尾誠、森山美紀子、安本真弓、姚艷玲、楊彩虹、楊蕾、吉野孝介、李夢迪、劉羈、路浩宇、魯曉琨 (以上 46 名。五十音順、敬称略)

(1) 各委員会、及び中国分会からの報告が行われた。主な内容は以下の通りである。

①学術研究会運営委員会 (報告者：丁雷委員長)

(1)2024 年度から「新人賞選考委員会」が設立される。新人賞は当該年度の学術研究会で口頭発表された論文の中から選考される。

(2)学術研究会は毎回 2 名の発表者を確保することを目指す。

(3)学術発表会で「質問役」を設けることで、より活発な議論が行われることを目指す。

②研究誌編集委員会 (報告者：丸尾誠委員長)

2024 年度は、『日中言語対照研究』第 26 号 (2024 年 5 月発行) に掲載の論文の中から「論文賞」が選出される。論文賞は 10 月に発表、12 月の全国大会にて表彰が行われる予定である。

③事務運営委員会 (報告者：安本真弓委員長)

(1)会員名簿の管理や会計事務など、今年度も順調に運営されている。

(2)最新の国内会員は 312 名、うち 2023 年度の会費が納入済の会員は 226 名である。

④特集編集委員会 (報告者：王学群委員長)

2024 年 3 月に特集号『日本語と中国語のやりもらい表現』 (白帝社) が発行された。この論文集には 6 名の著者による 5 本の特別寄稿論文も収録されている。

⑤中国分会 (報告者：于飛中国分会会長)

(1)2024 年 5 月 11 日時点で中国分会の会員数は 88 名、うち 2023 年 4 月以降入会の新規会員は 36 名である。

(2)第 49 回全国大会 (2023 年度冬季大会) と第 50 回全国大会 (2024 年度春季大会) では、中国分会からそれぞれ 7 名と 6 名が研究発表を行った。

(3)5 月 11 日時点で、中国分会から 9 名の日本語教師や大学院生が学術研究会で発表を行った。

(4)10 月 19 日 (土) には対面形式にて中国分会の学術研究会を行う計画がある。

⑥このほか、大会運営委員会（報告者：岡原嗣春委員長）、対外連携委員会（報告者：呉川委員長）、理事会運営・広報運営委員会（報告者：竹島毅委員長）から、新体制を迎えるあいさつや、各委員会のメンバーと仕事内容の紹介などがあった。

(2) 彭飛会長から以下の点が報告された。

- ①2024 年度から、理事の全員が各委員会のいずれかに所属することになっている。
- ②若手研究者を対象とした学会賞（学術研究会運営委員会の「新人賞」など）が新設されている。
- ③本学会会員を中心メンバーとした論文集『日中対照言語学研究論文集（第2巻）』（和泉書院）がすでに刊行されている。

2. 会員総会報告

日 時：2024 年 5 月 12 日（日）15:55～16:20（第 50 回全国大会閉会後）

場 所：オンライン会議（Zoom）

- (1) 彭飛会長から学会の各委員会の紹介などがあった。
- (2) 事務運営委員会（安本真弓委員長、曹泰和委員、相原里美委員）より会員動向などに関する報告があった。

- ①現在、日本国内の会員数は 312 名である。
- ②このうち、226 名が 2023 年度の会費納入済である。一方、4 年間会費未納の会員が 10 名おり、規定により除名ということになる。
- ③メールを正しく送信できない会員がいるので、メールアドレスの変更などがあった場合には学会事務局（xuehuijimu@hotmail.com）にご一報いただきたい。
- ④2024 年度の会計報告は以下の通りである。

日中対照言語学会2024年総会会計報告

1)2023年度収支決算

!023年4月1日～2024年3月31日)

収入の部				支出の部			
科 目	予 算	決 算	差 異	科 目	予 算	決 算	差 異
前年度繰越金	2,901,988	2,901,988	0	学会誌制作費	200,000	150,000	50,000
				学会誌特許号制作費	50,000	0	50,000
				学会刊行物の編集		100,000	-100,000
年会費				ホームページ管理費	20,000	18,653	1,347
				Zoom費用		22,110	-22,110
一般会員	550,000	532,000	-18,000	通信費	120,000	82,235	37,765
院生会員	140,000	218,000	78,000	事務管理費	30,000	0	30,000
積立金	150,000	150,000	0	積立金	150,000	0	150,000
				大会開催費			
大会参加費				5月大会	0	7,370	-7,370
5月大会	0	0	0	12月大会	70,000	0	70,000
12月大会	70,000	0	-70,000	講演費	20,000	40,000	-20,000
現金入金	50,000	0	-50,000	常務理事会交通費	30,000	0	30,000
電子書物	10,000	0	-10,000	会計担当手当	20,000	20,000	0
学会誌(119冊)		56,370	56,370	発送作業手当	20,000	20,000	0
本代		69,510	69,510	会計担当大会交通費	30,000	0	30,000
				予備費	210,000	0	210,000
				小計	970,000	460,368	509,632
				次年度繰越金	2,901,988	3,467,500	-565,512
収入合計	3,871,988	3,927,868	55,880	支出合計	3,871,988	3,927,868	-55,880

3. 第 50 回全国大会（2024 年度春季大会）報告

日中対照言語学会第 50 回全国大会は、予定通り、2024 年 5 月 12 日（日）、オンラインで開催された。分科会は 3 つの会場に分かれ多様な研究発表と活発な討論が行われた。

記

日 時：2024 年 5 月 12 日（日）9：20～16：20

会 場：オンライン会議（Zoom）

参加費：無料（会員、非会員共通）

プログラム

総合司会：岡原丞良（関西大学）

9：20～9：25 開会の辞：下地早智子副会長（神戸市外国語大学）

9：30～11：45 午前の部（分科会 A／分科会 B／分科会 C の 3 部制）

【分科会 A】

司会：王安（法政大学）

1. 中国人大学生のグループチャットにおける忒（dui）について—傍参与側の反応に着目して—
方敏（東華理工大学）
 2. “我们在这儿可以休息休息吗？”は非文なのか
林嵐娟（大阪公立大学・非常勤講師）
- 司会：勝川裕子（名古屋大学）
3. 「告げ口表現」における裸動詞の完了を表す用法に関する考察
劉士沢（名古屋大学・院）
 4. 発話連鎖の観点からみた中国人日本語学習者のほめへの肯定型応答の出現パターン
張晨（広島大学・院）

【分科会 B】

司会：豊嶋裕子（東海大学）

1. 合意形成談話における「カモシレナイ」の婉曲用法の使用傾向—日本語母語話者を対象に—
郭婧（広島大学・院）
 2. 日本語の「使役移動表現」における習得研究—中国人日本語学習者を対象として—
姜雨軒（大連外国語大学・院）
- 司会：続三義（東洋大学）
3. 「VP の／ことができる」という構文における形式名詞「の」と「こと」の選択条件
張夢華（関西学院大学・院）
 4. “自己”の照応用法に関する研究
孫盈盈（大阪大学・院）

【分科会 C】

司会：王学群（東洋大学）

1. 日本語学習者と母語話者コーパスに基づく再帰代名詞「自分」の用法の対照分析
李雪晴（天津外国語大学・院）
 2. 再誘いに対する断りの談話展開に関する日中対照研究
楊雪（広島大学・院）
- 司会：呉川（日本大学）
3. 日本語と中国語の再帰代名詞「自分」と“自己”に関する対照研究
鄭浩雯（大阪大学・院）
 4. 日中名詞の程度性表現に関する対照研究
—日本語「N すぎる」構文と中国語“太 N”を例に—
崔筱玉（電子科技大学・院）

11：45～13：30 昼休憩

※ 昼休憩中、12：20～13：20 に拡大理事会が行われた

13：30～15：45 **午後の部**（分科会 A／分科会 B／分科会 C の 3 部制）

【分科会 A】

司会：下地早智子（神戸市外国語大学）

5. ホームベースによる視点選択について—空間移動を表す「来る・行く」と“来／去”の類を中心に— 東 睿（京都大学・院）
6. 現代若者の自然会話におけるばかりし表現の使用実態—性差に着目して— 王凱男（岡山大学・院）

司会：安本真弓（跡見学園女子大学）

7. 疑問詞連鎖句 WH 要素同指関係再考 王芸嫻（立命館大学）
8. 「わかる」と共起する「NP のこと」の使用条件に関する一考察—学習者の誤用を手掛かりに— 徐筱琦（関西学院大学・院）

【分科会 B】

司会：加藤晴子（東京外国語大学）

5. 中国人日本語学習者による「自律移動表現」の習得研究 黄巧靈（大連外国語大学・院）
 6. 情報縄張り理論に基づいた終助詞「よ」の談話機能 顔曉冬（大連外国語大学）
- （※予定されていた分科会 B-7 発表は、発表者の都合により中止された）

【分科会 C】

司会：張黎（大阪産業大学）

5. 学習者の誤用例から見た日本語と中国語の相違—日本語の「心情」「気持ち」「気分」「機嫌」の使い分け及び中国語訳の考察— 柯俊文（京都外国語大学・院）
6. “都”における先行詞の解釈問題—「X とも」と対照して— 張瑩（北海道大学・院）

司会：藤原優美（広島市立大学）

7. 日本語と中国語における改善要求談話の比較—開始部に着目して— 李曉丹（広島大学・院）
8. 中国人日本語学習者向けの教材におけるいわゆる様態の「ソウダ」の翻訳問題—「ヨウダ」「ソウダ」と中国語“好像”との比較分析から— 劉怡（名古屋大学・院）

15：50～15：55 **閉会の辞**：彭飛会長（京都外国語大学）

※ 閉会後に会員総会が開催された。

4. 学術研究会報告（2024 年 1 月・2 月・4 月） ※詳細は当学会 HP に掲載

■ 日 時：1 月 20 日（土）17:00～18:00（オンライン）

発表者①：吉崎奈々（大連外国語大学）

テーマ：エントリーシートの志望動機における日本語表現と談話構造の一考察—対策本を資料として、自己呈示のあるものを中心に—

発表者②：李鳳梅（大連理工大学・院）

テーマ：日本語語用論的能力テストの開発—依頼発話行為の「産出」と「理解」を中心に—

■ 日 時：2 月 17 日（土）17:00～18:00（オンライン）

発表者：汪宇彤（大連外国語大学・院）

テーマ：「ほめ」表現に対する返答のストラテジーに関する日中対照研究

■ 日 時：4 月 20 日（土）17:00～18:00（オンライン）

発表者：顔曉冬（大連外国語大学）

テーマ：終助詞「よ」の会話管理に果たす役割

事務局より

- 1) 学会の入会申請は、日中対照言語学会のホームページ上で受け付けております。申請ができなかった場合は入会担当の相原里美副委員長 (xiangyuanlimei@gmail.com)、または安本真弓事務局長 (yasumoto@cap.ocn.ne.jp) までご連絡ください。年会費は社会人 4,000 円、院生 2,000 円となっております。
- 2) 【年会費の納入願い】
年会費は、郵便振込用紙を送付しておりますので、ご納入いただきますようお願いいたします。何かご不明な点がありましたら、会計担当の曹泰和副委員長 (soutaiwa@meikai.ac.jp) にお問い合わせください。
- 3) 学会会報、大会、学術研究会開催などの通知は、ホームページに掲載するほか、メールでもご連絡しております。下記記載の通り、住所やメールアドレスなど不明で学会よりご連絡できない方がいらっしゃいますので、ぜひ事務運営委員会 (xuehuijimu@hotmail.com) までお知らせいただきますようお願いいたします。また所属、住所やメールアドレスなどの変更に関しても同様にお知らせください。
住所など不明の方：
何潔、冀媛媛、胡春艶、蔡嘉昱、徐佳、徐幸華、曾曾、蘇碩、張岩、趙金昌、張立波、鄭欣悦、鄭琼花、東寺祐亮、屠潔群、白叡、陸小曼、李光曦、劉嘉勇、劉樊艷、李瑶、凌飛、廖琳
上記の住所などが不明な方の情報をご存じの方も、お手数をおかけいたしますが、事務運営委員会 (xuehuijimu@hotmail.com) にお知らせいただけませんか。
- 4) 【学術研究会発表者募集中】
学術研究会（旧：月例会）発表者は随時募集しております。ご発表を希望される方は、学術研究会運営委員会 (rizhongduizhaoyanyuxuehui@hotmail.com) までお申し込みください。なお、申込に関する詳細情報などはホームページ上でご案内しております。
- 5) 【中国在住会員の年会費納入及び学会誌送付】
年会費（一般会員：200 人民元、学生会員：100 人民元）は会計年度（毎年 4 月 1 日～翌年 3 月 31 日）内にご納入ください。納入方法（中国国内銀行の振込口座情報等）に関してはすでに中国在住会員にお知らせしておりますが、ご不明な方はメールにて中国分会事務局 (rzydydzfh@163.com) にお問い合わせください。
学会誌送付については、電子版（PDF 版）での対応となります。

